

令和6年11月7日

三浦市議会議長 出口 眞琴 様

総務経済常任委員会
委員長 長島 満理子

令和6年度 総務経済常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和6年10月15日（火）・16日（水）

2. 視察先

愛媛県愛南町 10月15日

愛媛県宇和島市 10月16日

3. 視察参加者

総務経済常任委員会

委員長 長島満理子

副委員長 小林 直樹

委員 溝川 幸二

委員 寺田 一樹

委員 草間 道治

委員 千田 征志

議長 出口 眞琴

随 行 上田 貴大

4. 視察事項

◇ 愛媛県愛南町

海業の取組について

◇ 愛媛県宇和島市

宇和島市公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」について

【10月15日(火)】

(愛南町 HP より)

■ 愛媛県 愛南町の概要

- ・ 面 積 238.94平方キロメートル
- ・ 人 口 18,699人※令和6年10月1日現在
- ・ 世 帯 数 9,586世帯※ //
- ・ 産 業 別 第1次産業 (20.03%) 第2次産業 (14.11%)
第3次産業 (62.95%)

■ 位置・地勢

愛南町は、平成16年10月1日に南宇和郡5町村（内海村・御荘町・城辺町・一本松町・西海町）が合併して誕生しました。



(愛南町 HP より引用)

本町は、愛媛県の西南端に位置し、宇和島市津島町および高知県宿毛市に隣接している町です。海岸部は典型的なリアス式海岸を形成し、数々の景勝地を有する「足摺宇和海国立公園」に指定されています。

■ 町の特徴

恵まれた自然環境を活かし、第1次産業の農業および水産業を中心とした産業が盛んです。内陸部では、温暖な気候のもと、米作とともに多様な地形を利用して甘夏柑や愛南ゴールド等のかんきつ栽培が、海岸部では、水産資源を活用した漁業および魚類養殖が行われています。



愛媛県愛南町

海業の取組について

- 視察目的

昭和60年より三浦市が提唱してきた地域活性化のキーワードである海業が水産基本計画に位置付けられ、三浦市は海業発祥の地として、海業日本一のまちづくりに取り組み官民連携により進めている。

海や漁村など地域の魅力を活用した地域活性化策を実施している愛南町の海業を視察する。

- 視察先対応者

挨拶：佐々木 史仁議長

説明：海業推進室 浜辺 隆博室長
清水 陽介係長

- 視察訪問先

愛南町西海支所及びウニッコリー養殖場

- 視察概要

- 海業とは

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに答えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの（「漁港漁場整備長期計画」より引用）



廃棄となるブロッコリーなどを食べるウニッコリーの養殖場

■ 海業推進会議について

毎年度制定する水産業振興計画に基づき推進する水産の振興に、海業（海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する取組や事業）を組み合わせ推進していくことを目的に設置されている。

町の未来を担う若者、町民からの提案をすくい上げ、様々なプロジェクトやイベントなどに発展させている。町民の3分の2である水産業に関わりを持たない町民の意見も組み入れていることで相乗的に発展させていく狙いがある。

■ 海業グランドデザインについて

令和5年度の海業推進会議の成果として、「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」をスローガンとして、5つのプロジェクトを示した愛南町海業グランドデザインを策定した。

愛南町の海業の羅針盤となることを旨として、海業推進会議委員一同が、町民全員へのメッセージとして示した想いで策定された。掲げたスローガンのもと、地域の宝である地域資源をつなぎ合わせて町を輝かせる物語（ストーリー）を各プロジェクトと位置付けて掲載している。



● 主な質疑応答

Q： 取組にあたっての課題、その克服方法について

A： 海業に取り組むにあたっての最も大きな課題は、担い手の不在と当事者意識の欠如である。担い手の不在については、大学進学を機に町を出てしまう若者が大勢いること、魅力的な就職先が不足していることが、優秀な人材の流出にも繋がっていると考えている。また、当事者意識の欠如については、「役場がやってくれるはず」「ほどほどの生活が出来ているので新しいことを始める必要はない」といった他人事感が蔓延していることである。

これらの克服に向かって歩み進めているところだが、万能薬はないため、課題に対して一つずつ丁寧に向き合い対応すること、継続的な情報発信（町広報誌やケーブルテレビ（町内契約率8割超）の活用等）、役場内を含

めた継続的な人材育成、適切な外部人材の登用等を図っているところである。

Q： 策定のきっかけについて

A： 海業推進会議を組織する上で、初年度の目標として「海業グランドデザイン」を策定した。町の課題を多く取り込みすぎており、活動内容が抽象的で伝わりづらいという意見が未だに根強くあるが、これを解消するための一つの手段としている。

Q： 観光客のターゲット層は。

A： 日帰りなどのライトな層のほか、構想段階ではあるが5泊6日などのサマースクールで、愛南町に長く滞在してもらえるようなものを考えている。



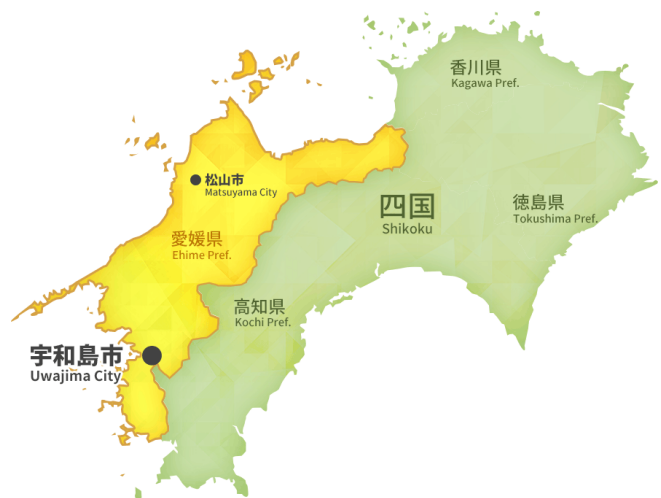
【10月16日(水)】

■ 愛媛県 宇和島市の概要

- ・面 積 468.19平方キロメートル
- ・人 口 67,275人 ※令和6年9月30日現在
- ・世 帯 数 34,906世帯※ //
- ・産 業 別 第1次産業 (18.8%) 第2次産業 (14.6%)
第3次産業 (66.6%)

■ 位置・地勢

本市は四国西南地域に位置しており、西部は宇和海に面し、東部は四国山地に接している。平地が少なく、海岸部はリアス式海岸、内陸部も四国山地の支脈が多く急峻な地形を形成しており、その地形を活かした段畑等の文化的な景観も随所にみられる。



(宇和島市観光情報センターHP より引用)

■ 市の特徴

「かんきつ王国・愛媛」の中でも有数の生産量を誇る宇和島市。ポンカンやブラッドオレンジの生産量で全国1位となっている。ほかにも、真珠や真鯛の生産量が1位となっている。



愛媛県宇和島市

宇和島市公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」について（防災モード）

- 視察目的

DX推進と誰一人取り残さないデジタル化として高齢者や苦手な意識のある方にもデジタル化の利便性とそれに伴う防災の活用について視察する。

- 視察先対応者

挨拶：議会事務局 宇都宮 太局長
説明：企画制作部 危機管理課 渡邊 浩明係長
同 課 石川 将文主事

- 視察訪問先

宇和島市役所

- 視察概要

- アプリ全体について

観光の動機付け、観光客等のニーズに合わせた最新情報等の提供による満足度向上を目的として「伊達なうわじま安心ナビ」を導入した。その後に南海トラフ地震等の避難支援機能（防災モード）や健康モード、子育てモード、マリッジモード、ポイントモードを順次導入し、合計の6つのモードを備えたアプリとなった。また、市民が受け取った情報で「ホッと」とした生活を送れるよう「伊達なうわじまホッとナビ」に名称を変更した。

順次それぞれのモードでアップデートを行っており、機能の充実を図っている。



■ 防災モードについて

防災モードでは、警報等のプッシュ通知で災害時の避難を支援するほか、近くの避難所の検索や、現在地の災害リスクの確認ができる機能、津波や土砂災害の危険度をAR（拡張現実）で確認できる機能、防災クイズ機能などにより日ごろから防災意識を高められる工夫がなされている。

■ 統合型情報配信システムについて

令和元年度から、アプリやメール等様々な媒体で行う通知をワンオペレーションで行える仕組みに組み込まれ行政の負担軽減に役立っている。

（伊達なうわじまホッとナビ公式HPより引用）

■ 抱えている課題について

モードやその中の機能の増加や物価高騰の影響により、保守管理費が年々増加している。当初平成27年度の保守費用は100万円程度であったが、今年度は約550万円となっている。

また、アプリの機能を追加しても個々のスマートフォンのOSのバージョンにより全ユーザーにその機能を使えるようにできないなどの問題がある。



● 主な質疑応答

Q： 防災モードの中で特に効果を感じる機能について

A： 防災モードでは、各種ハザードマップ、AR津波、学ぶ機能を展開することとで、平時における利用を促進している。

Q： 災害発生時等にどのように活用されるか。

A： 多様な情報配信手段の1つとして、令和元年度からワンオペレーションで情報配信できる仕組み（統合型情報配信システム）に取り組んでいる。

また、スマートフォン本体のGPS機能と連動して（避難情報の発令等）危険な区域にいるかを認識し（Lアラート経由）、個別具体的な避難行動の支援を行っている。

全国瞬時警報システム（Jアラート）からの情報についても、自動連携による発信設定を行っている。

Q： 他自治体で導入するにあたってのアドバイスや課題

A： アプリ開発背景のとおり、当初は観光目的とした構築であったものの、情報配信手段として有効活用するため「モード」による使い分けを選択した。これにより、各部門から「モード」を追加する形で後乗りすることができ、結果、本市の総合アプリとして多くのユーザーに好評を得ている。

行政では特に部門間の連携を意識せず事業を展開する故に、同様のサービスを重複して住民へ提供してしまうことがあるため、アプリ構築に限らず、特に新規事業においては庁内での情報共有が必要だと考える。

Q： 費用対効果で感じることはあるか。

A： 観光モードのみの状態から6つのモードを搭載し総合アプリとなったことで、インストールが伸びた。

Q： 三浦市と同じように高齢化率が高いが、スマホ教室の参加率はどうか。

A： ポイント事業とあわせ、教室に行くとポイントがもらえるような工夫をし参加者を集めている。

Q： 今後のアップデートの予定はあるか。

A： 川の氾濫時の浸水AR機能を構築中である。



行政視察の成果について

総務経済常任委員会 行政視察報告

総務経済常任委員長 長島満理子

愛南町の海業について

昭和60年より三浦市が提唱してきた地域活性化のキーワードである海業が、水産基本計画に位置付けられ海業発祥の地として、海業日本一のまちづくりを目指した取り組みを官民連携により進めています。

愛南町も令和5年に水産庁の「海業振興モデル地区」に選ばれました。海業推進室を水産課内に立ち上げ、室長として水産庁職員の出向を実現しました。

持続可能な海業の実現に向けて、海業と海業推進の紹介パンフレットの作成や庁内職員の気づきを育むきっかけの場づくりに取り組み勉強会を開催しました。課題解決に向け「愛南町海業推進会議」を立ち上げ、ワークショップなどを開催し、40代を中心に愛南町推進会議委員を決め、グランドデザイン策定を目指しています。

愛南町が考える海業とは、海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待されるものと示しています。

海業グランドデザインは5つのプロジェクトを掲げそれぞれの体制をつくり、進めています。プロジェクトは答えがあるものではないとの考えで、内容をどんどん変えていく事もあるそうです。生産者と消費者を繋ぐ取り組み、人を呼び込む取り組み、教育面では、海業の出前授業やサマースクール体験など町の特性を生かしたプロジェクトは三浦市でも取り入れたいと思います。

多くの意見をワークショップなど開催しながら、課題や問題点を検証し海業推進会議を進めていく事は難しいことではありますが、事業が進んでいることは素晴らしいと感じました。



宇和島市公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」(防災モード)について

伊達なうわじまホッとナビは、平成27年度に実施した「伊達入部400年記念事業」と観光の動機付け、観光客のニーズに合わせた最新情報等の提供による満足度向上を目的として「伊達なうわじま安心ナビ」が導入されました。

観光モードに合わせて、南海トラフ地震等の避難支援機能も搭載されました。(防災モード)その後、健康モード、子育てモード、マリッジモード、ポイントモードが追加され総合アプリとして様々な情報発信が可能になりました。

その中の防災モードについて説明をうけました。アプリをインストールすることによって各種ハザードマップ、AR津波・土砂・洪水浸水想定区域AR機能、学ぶ防災学習機能を展開することで、平時における利用を促進しています。

特にAR機能は、想定される土砂映像が映し出され避難の判断がわかりやすくなっています。他、さまざまな機能があり、アプリ利用者も増加しています。

また、児童生徒のタブレットにインストールされていることによって、災害時の危機感を持つことができます。

高齢者やスマートフォンの取扱いに慣れていない方には、情報提供について多様な情報発信手段があり、また市のホームページやテレホンサービスによって多重化し配信されています。スマートフォン教室も事業所と連携して行っています。観光客の方もアプリをインストールすることによって、もしもの時の備えができます。

三浦市もこのようなアプリを市民が利用することにより、防災意識が備わると感じました。

総務経済常任委員会 行政視察 報告書

副委員長 小林 直樹

1. 愛媛県愛南町 〈視察事項〉海業の取組について

(1) 海業推進会議設置の経緯

愛南町は、巻き網漁業やマダイ・ブリ類の養殖業が盛んである。令和4年3月に閣議決定された水産基本計画に「海業等の推進」が位置づけられる。

令和5年1月に海業振興モデル地区申請書を提出し、3月にモデル地区に選ばれた。4月に水産課海業推進室を新設し、室長として水産庁からの出向職員を受け入れる。7月には、様々な職種の25名で海業推進会議を設置した。

(2) 海業グランドデザインの策定

海業推進会議の全体会を5回、運営委員会を9回開催し、令和6年3月に「海業グランドデザイン」を策定した。

そして、漁業関係者、観光業者、宿泊・飲食業、加工業者、地域住民、消費者、行政等を繋げる「中間支援組織」を構築して行くことを目指している。

(3) 今後、参考にすべき事項

様々な職種の住民等で海業推進会議を設置し、海業の推進について議論を重ね「海業グランドデザイン」を策定し、情報を共有化し意見を出し合いながら活動している。

経済振興を図るには、「情報の公開」と「自由な議論」が必要だと感じた。



2. 愛媛県宇和島市 〈視察事項〉宇和島市公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」(防災モード)について

(1) アプリ開発の経緯

平成27年度に、観光客向けの「伊達なうわじま安心ナビ」(観光モード)を導入した。また、平成28年度に、南海トラフ地震等の避難支援機能(防災モード)も搭載した。そして、健康モード(28年度)、子育てモード(30年度)、マリッジモード及びポイントモード(令和5年度)を追加し、総合アプリとして様々な情報発信が可能になった。名称も「伊達なうわじまホッとナビ」に変更した。

(2) 防災モードの充実

平成30年7月に豪雨により、13名が亡くなるという大きな被害を受けた。その後、防災モードの充実を図った。

防災支援情報として、避難所、病院、AED設置場所、ハザードマップ表示、土砂災害警戒区域表示、津波AR機能(津波想定・海拔表示)等を行っている。現在、洪水浸水想定区域AR機能を構築中である。

(3) 今後、参考にすべき事項

集中豪雨や地震災害等に備えるためには、避難所や備蓄品、避難訓練、そして、防災情報等の充実が必要である。

三浦市でも、独自のアプリを導入することが求められていると考える。

総務経済常任委員会 愛媛県愛南町及び宇和島市行政視察レポート

溝川 幸二

愛南町「海業について」

1. はじめに

三浦市における地域活性化、特に海洋資源の活用と観光振興を目的として、愛媛県愛南町へ行政視察を実施した。愛南町は、リアス式海岸の美しい自然と豊かな漁場を有し、「海業」を推進することで地域活性化に成功している。本視察では、愛南町の花業の取り組みについて、現場視察や関係者との意見交換を通して、その成功要因や課題、そして三浦市への応用の可能性について考察した。



2. 愛南町の花業の概要

愛南町では、漁業だけでなく、農業、観光、レジャー、教育、環境保全など、様々な分野と連携した海業を推進している。具体的には、漁業体験、シーカヤック、SUP、ダイビング、ぎょしょく、環境保全活動など、多岐にわたる取り組みが行われている。

3. 愛南町の海業の特徴

漁業者、観光業者、小売業者、地域住民など、様々な関係者が連携し、海業を推進しており、美しいリアス式海岸、豊かな漁場、新鮮な魚介類など、地域資源を最大限に活用している。

環境保全、資源管理、地域社会への貢献など、持続可能な取り組みを重視しながら、町全体で海業をプロデュースし、地域ブランドの向上を図っている。

4. 行政視察を通して得られた知見

海業推進室の役割：海業推進室が中心となり、地域の連携強化、情報共有、事業の企画・調整などを行っている。

小売業者との連携：地元の魚介類を使った新商品の開発や販売促進、海業をテーマにしたイベントなど、小売業者と連携した取り組みが活発に行われている。

観光客誘致：愛南町の魅力を発信するウェブサイトやパンフレットの作成、体験型観光プログラムの開発など、観光客誘致にも力を入れている。

5. 三浦市への応用

愛南町の海業の取り組みは、三浦市にとっても多くの示唆を与えてくれる。三浦市においても、海業を推進することで、地域経済の活性化、雇用創出、観光振興などが期待できる。具体的には、三浦の豊かな海産物や美しい海岸線を活かした観光プログラムの開発や、三浦の海の魅力を発信するウェブサイトやパンフレットの作成、SNSを活用した情報発信など、現在も行われている海業の活動をさらに拡充することが望まれる。

6. まとめ

愛南町の海業視察を通して、地域stakeholdersの連携、地域資源の活用、持続可能性の重視、そして海業プロデュースの重要性を認識した。三浦市においても、愛南町の成功事例を参考に、海業を推進することで、地域活性化に繋げていく必要がある。

宇和島市「公式アプリ『伊達なうわじまホッとナビ』から学ぶ防災情報伝達」

1. はじめに

近年、全国各地で豪雨や地震などの自然災害が頻発し、市民の安全確保に向けた効果的な情報伝達手段の重要性が高まっている。特に、高齢化や外国人住民の増加といった地域特性を踏まえ、多様なニーズに対応できる情報伝達体制の構築が求められている。そのような背景から、愛媛県宇和島市が開発した公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」に着目し、行政視察を実施した。

2. 宇和島市の防災の概要

平成30年7月豪雨では、河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの家屋が浸水被害を受けた。この災害を教訓に、宇和島市はハード・ソフト両面からの防災対策を強化し、ハード面では、河川改修や砂防ダム建設などの防災基盤整備を進め、ソフト面では、防災訓練の実施や防災意識向上のための広報活動などに取り組んでいる。

3. 宇和島市の防災の特徴

宇和島市の防災の特徴は、公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」を活用し

た多言語対応のプッシュ型情報発信にある。このアプリは、防災情報だけでなく、観光情報、健康情報、子育て情報なども提供しており、市民の生活に密着した情報プラットフォームとなっている。防災モードでは、避難所の情報、ハザードマップ、AED設置場所、AR活用による津波情報、避難経路の表示などの情報が提供されている。プッシュ通知機能により、リアルタイムな情報発信が可能となり、必要な情報に迅速にアクセスできる。また、多言語対応により、外国人住民も安心して情報を得ることができる。

4. 行政視察を通じて得られた知見

「伊達なうわじまホッとナビ」の開発・運用体制、普及促進に向けた取り組みなどについて詳しく担当者より説明を受けた。特に、アプリの開発を徐々に進め、その都度ブラッシュアップを行い、使いやすさを追求している点、防災訓練の実施や学校教育への導入など、アプリを活用した防災教育に力を入れている点は、参考になった。

5. 三浦市への応用

このアプリを参考に、三浦市においても、ICTを活用した多言語対応のプッシュ型情報発信システムの構築を検討する必要があると感じた。具体的には、三浦市の公式アプリを開発し、防災情報、避難情報、イベント情報などを配信することで、市民への情報提供を強化することができ、また、プッシュ通知機能を活用することで、災害発生時などに迅速な情報伝達が可能となる。さらに、多言語対応機能を備えることで、外国人住民を含めた全ての市民や来遊客への情報を提供することができる。

6. まとめ

宇和島市への行政視察を通じて、「伊達なうわじまホッとナビ」は、市民の安全確保に貢献する有効なツールであるだけでなく、来遊客やインバウンド客への情報発信の一翼を担うツールであることを確認した。三浦市においても、ICTを活用した情報伝達体制の構築を推進し、市民一人ひとりに寄り添った防災対策を展開していく必要があると感じた。

総務経済常任委員会行政視察報告

寺田 一樹

海業の取り組みについて

愛南町で海業の取り組みについてお話を伺いました。

愛南町は、養殖に適した静穏水域を多く生み出すリアス式海岸を有し比較的温暖な地域であるとともに、沿岸・沖合部には黒潮が運んでくる豊富な水産資源を有しています。四国一の水揚げ量を誇る生鮮カツオや国内シェア約20%を有する養殖マダイ、国内シェアの約半分を占めるアコヤガイの生産など、国内有数の水産基地となっています。



しかし、近年は、漁業資源の減少や漁業従事者の高齢化、後継者不足などの問題により、水産業全体が衰退傾向にあります。また、ダイビングや磯釣りなどのマリンスポーツが有名ではありますが、滞在型イベントや体験などが少なく、宿泊施設も少ないことが課題になっています。

豊富な地域資源を最大限活用し、水産業を中心として未来にわたって持続可能な地域づくりを進めたいと考えていたところ、国が提示した海業の趣旨と合致するものであったため、積極的に海業に取り組むこととなりました。

自分たちが未来を創っていくという当事者意識を持ってもらうことをねらいの一つとして、海業推進会議を立ち上げ、その中でグランドデザインを策定しました。グランドデザインには様々なプロジェクトが示されており、いずれのプロジェクトも現在進行形とのことであります。

ガンガゼに愛南町の特産品であるブロッコリーや河内晩柑の廃棄部分をエサとして与え、ウニッコリーとして商品化する取り組みなど、三浦市と共通するような取り組みも数多く見られました。

海業発祥のまちである三浦市としても、今まで以上に海業を推進し、愛南町に後れをとらないように取り組んでいかなければならないと感じました。

宇和島市公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」（防災モード）について

宇和島市で「伊達なうわじまホッとナビ」（防災モード）についてお話を伺ってまいりました。

平成27年度に実施した「伊達入部400年記念事業」及び観光の動機付け、観光客等のニーズに合わせた最新情報等の提供による満足度向上として「伊達なうわじま安心ナビ」を導入しました。観光モードに合わせて、防災モードも搭載し、その後、健康モード、子育てモード、マリッジモード、ポイントモードを追加し、総合アプリとして様々な情報発信が可能になったため、市民の皆様が受け取った情報で「ホ

ッ」とした生活を送れるよう「伊達なうわじまホッとナビ」に名称変更しています。

防災モードでは、多様な情報配信手段の一つとして、ワンオペレーションで情報配信できる仕組みが構築されています。また、スマートフォン本体のGPS機能と連動して危険な区域にいるかを認識し、個別具体的な避難行動の支援ができるようになっています。

中でも、避難所や病院、AEDの設置場所が一目でわかる地図機能や各種ハザードマップ、AR津波、学ぶ機能など新機能を追加することで、平時から防災意識が高められるよう作られています。

その一方で、機能が多くなるにつれて、保守管理における委託料が増加傾向にあるとのことです。本市において同じようなアプリを導入するとなると、イニシャルコスト及びランニングコストについてもしっかりと把握したうえで、検討することが必要であると感じました。

総務経済常任委員会 行政視察報告

草間 道治

今回の視察は、愛媛県愛南町と愛媛県宇和島市に行政視察に行きました。

本市発祥の「海業」については、水産庁では令和4年3月に閣議決定された水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画において、「海業の振興」を位置付け、漁港を海業に活用するための仕組みを検討していくことを明記し、水産物消費の増進や交流人口の拡大を図るとともに、漁港において陸上養殖の展開等の漁港機能の強化を図るため、地域の理解と協力の下、地域の水産業を活性化する海業の取組を促進しています。

そこで、全国の海業振興モデル地区から、愛媛県愛南町の「海業：UMIGYO」について視察研修に行きました。

愛南町では古くからリアス式海岸を利用して養殖業が盛んな地域であり、養殖マダイは全国シェアの約20%年間1.2万トンの養殖をしているとのことであり、その他、生鮮カツオ陸揚げ量は四国1位(年間1千5百トン)であるなど、漁業の盛んな愛南町であります。

その愛南町の海業の取組については、海や漁村など地域の魅力を活用した地域活性化策として海業を2023年4月から始動し、水産課海業推進室を設置し水産庁から室長を迎えて「愛南町海業推進会議」を立ち上げ、多主体連携による自律的な取組の創発を基本理念に掲げ全体会議を行い、町の未来を担う若者、町民皆様からの提案をもとに「愛南町海業グランドデザイン」を策定し、地域の宝・地域資源を生



かした海業の取組の今後の成果が気になる視察でありました。水産庁から出向の室長の浜辺さんの活躍に期待いたします。愛南町の丁寧な視察対応に感謝いたします。

2日目の視察では、近年多発している風水害や地震災害など、防災対策の重要性が指摘されており、南海トラフ地震が想定されている地域である宇和島市の防災対策について行政視察に行きました。

宇和島市公式アプリ「伊達なうわじまホッとナビ」（防災モード）をテーマに研修を行い、これまでの災害情報伝達の手段では、総合防災情報管理システムの情報を宇和島市安心安全情報メールで登録していただいている市民に情報を伝えるシステムから、「伊達なうわじまホッとナビ」アプリを活用し、アプリ登録をした市民が災害時に必要な情報を取得することが出来ることは大きなメリットであると感じました。特に避難場所へのナビ機能や津波AR機能では、現在いる場所の津波想定・海拔表示や土砂AR機能による警戒区域の情報を瞬時に取得し、自らの判断で行動できることや新たに洪水浸水想定区域AR機能を構築中であることなど多くの情報を蓄積している機能が素晴らしく感じました。

また児童・生徒が利用している端末にインストールして活用していることは素晴らしい取組であると感じました。

改めて本市においてもこのような防災情報アプリの必要性を感じた視察でありました。

総務経済常任委員会行政視察報告

千田 征志



1. 愛媛県愛南町「海業の取り組みについて」

愛南町は、南は黒潮躍る太平洋を望み、西は豊後水道に面している自然環境に恵まれた地域で日本一の生産高を誇る真珠母貝や四国一の水揚げ量を誇るカツオなど水産資源にも恵まれた自然豊かな町でありました。

海業の推進については、令和5年3月に水産庁の「海業振興モデル地区」に選ばれ、翌年7月には海業推進室が水産課内に立ち上げられました。

また、令和5年7月には海業の様々な関係者の連携による取組や事業の創発と人材育成を目的として、多業種の関係者25人で組織する海業推進会議を設置し、漁業・水産業に根差した町の未来像を議論し、令和5年度の会議の成果として、「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」をスローガンとして、地域を支える漁村の活性化、浜の再生・活性化、観光業の促進等、地域の理解と協力のもと、地域の所得と雇用機会の確保を図り、地域の宝=地域資源の今と未来をキーワードに、それぞれの地域の実態に合わせ、積極的な市民交流会や産官連携に取り組まれています。

一方で、海業の推進にあたっての課題や克服方法については、漁業者の減少や高齢化、担い手不足（大学進学を機に町を出てしまう若者が大勢いる、魅力的な就職先が不足）、当事者意識の欠如（役場任せ、新しい事を始める必要性を感じない）など様々な課題があるとのことです。

そのような中でも、課題に対して一つずつ丁寧に向き合い対応し、継続的な情報発信を続ける姿勢は、本市においても海業を推進するにあたり、とても参考になりました。わずかな時間でしたが、丁寧な説明をして頂き、本市の海業の繁栄に繋がる視察になりました。

2. 愛媛県宇和島市「伊達なうわじまホッとナビ」防災モードについて

宇和島市における防災対策の基本方針では、災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることから、衆知を集めて効果的な災害対策を講じるとともに、市民一人一人の自覚及び努力を促すことによって、できるだけその被害を最小化し、被害の迅速な回復を図る「減災」の考え方を防災の基本方針とし、たとえ被災したとしても人命が失われないことを最重視されています。また、平成30年7月豪雨被害で大規模な災害により、ハード対策だけでは被害を防ぎきれない事態がありました。

このような中、ソフト施策を可能な限り進めるため、当初は観光目的で作成した市の公式アプリ「伊達なうわじま安心ナビ」（現在は名称を「伊達なうわじまホッとナビ」に変更）に防災モードを搭載し、今後、発生が想定される南海トラフ地震などが起こった場合などに、避難行動を支援する情報の配信等の充実を図られています。

防災アプリの取り組みについては、高齢者やスマートフォンの使い慣れていない方への対策を行っているほか、事前に災害を想定し「自らの命は自らが守る」ことを学ぶため、平時から災害に対する備えをフォローアップするなど、市民や観光客の方々に優しいアプリ開発に努められています。

維持管理費、モードの多さと昨今の物価高騰により、委託業者への契約金額も増加傾向にあるなどの課題もありますが、宇和島市の防災の取り組みについて、本市としてもLINEアプリやホームページなど、ソフト面の充実を図っていくことが重要であると学ばせて頂きました。

総務経済常任委員会行政視察報告

議長 出口 眞琴

令和6年度総務経済常任委員会では10月15日～16日にかけて行政視察を行いました。

行政視察1日目は愛媛県愛南町の「愛南町の海業について」、2日目は愛媛県宇和島市「宇和島市公式アプリ『伊達なうわじまホッとナビ』」の日程です。

1日目は、愛媛県愛南町の「愛南町の海業について」です。愛南町は、愛媛県の最南部に位置する町です。町の面積は238,94km²、人口は約18,000人。主な産業は、水産業や農業です。水産業では、真珠養殖に必要な真珠母貝の養殖が日本一であり、また、タイ・ハマチ・フグ・ヒラメの養殖が盛んで、深浦港は愛媛県唯一のカツオの水揚げ港であります。農業では、柑橘類の栽培が盛んで甘夏、愛南ゴールド（河内晩柑）が有名です。

愛南町では、令和5年4月から、海や漁村など地域の魅力を活用した地域活性化を目的に海業推進室を設置し、「海業」の取り組みが始まりました。

また、令和5年7月から、海業の様々な関係者の連携による取組や事業の創発と人材育成を目的として、多業種の関係者25人で組織する海業推進会議を開催し、漁業・水産業に根差した町の未来像を議論してきました。

海業推進会議として「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」をスローガンに、5つのプロジェクトを示した愛南町海業グランドデザインを策定しています。

1. 「愛南海業コンシェルジュUmidas」プロジェクト

○このプロジェクトでは、今回のグランドデザインの中心的役割を担う

2. 「インバウンド！AINANツアー生成」プロジェクト

○インバウンドを対象として選ばれる旅行先になることを目指す

3. 「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」プロジェクト

○食と観光を振興するイベントを主催する

4. 「愛南町ブルーカーボン創出」プロジェクト

○藻場の回復事業、Jブルークレジット®認証範囲の維持拡大

5. 「愛南ぎょしょくツーリズム」プロジェクト

○水産物の生産から消費、生活文化までを体感する7つの「ぎょしょく」を企画・実践する



愛南町として地域が過疎で衰退しているという現実を受け止めながら、それを

自分たちが変えていく、未来につなげていくという思いが込められた、グランドデザインになっていると思います。

三浦市は、海業発祥の地として地域活性化を目指して「うらりマルシェ」や三浦市二町谷地区「海業振興を目指す用地利活用プロジェクト」等による海業の具現化に取り組み三崎漁港地区における主要な集客施設となる等、一定の成果を上げていますが、うらりマルシェの改修や、周辺区域の活用を図る海業振興事業が提案事業者の自己負担を前提とした公民連携事業であることなど、大きな課題を残しています。地元関係者にもご理解頂き、水産業・海業の振興と密接な連携や滞在時間の延長、集客資源の更新による地区の魅力向上を図り、三崎漁港の魅力を高めて頂きたいと思っています。

2日目は、愛媛県宇和島市「宇和島市公式アプリ『伊達なうわじまホッとナビ』」についてです。

宇和島市は、愛媛県の南部に位置する市です。南予地方の中心都市で、宇和島城を中心に発展した闘牛で有名な旧城下町でもあります。市の面積は468,19km²、人口は約67,000人、主な産業は農業や養殖、水産業で、柑橘類や真珠、ハマチ、マダイなどが有名です。また、真珠養殖日本一の中心的存在であります。

宇和島市の研修は宇和島市公式アプリ「伊達なうわじま安心ナビ」（防災モード）についてです。

平成27年観光客等のニーズに合わせて導入され、その後に南海トラフ地震等の避難支援機能（防災モード）、健康モード、子育てモード、マリッジモード、ポイントモードが追加され総合アプリとして様々な情報発信が可能な「伊達なうわじまホッとナビ」となりました。

「伊達なうわじまホッとナビ」

防災モード…各種ハザードマップ、AR津波、災害時の避難行動支援や、災害に備えての知識を学ぶことができる事で平時の利用促進をしています。

「日本語」「英語」「中国語（繁体字）」「韓国語」の4ヶ国語に対応しています。

観光モード…宇和島市の観光情報を紹介している、「うわじま観光ガイド」が開きます。

子育てモード…子育てに関するお知らせやお役立ち情報などを気軽に確認ができます。

マリッジモード…宇和島圏域で開催される婚活イベントやセミナーなど、結婚支援に関するお知らせ等を随時発信しています。

ポイントモード…市内店舗等で使える宇和島の地域ポイント、RUC POINT（電子地域ポイント）アプリです。

三浦市では、現在、大雨洪水警報などの防災情報を、市内100ヶ所のスピーカー（防災行政無線放送）で市民の皆さんにお知らせする他、防災情報メールサービス

各種モードのご紹介



新たに「マリッジモード」と「ポイントモード」が追加されました。





観光 モード

宇都宮市の観光情報を盛り込んで、「うらじり観光ガイド」が楽しめます。





防災 モード

災害時の避難行動や防災、災害への備えの情報をまとめたことができます。
※対応機種・対応OSバージョンに依存します。





健康 モード

ウォーキングでの距離づくりや健康診断のモードです。
※対応機種・対応OSバージョンに依存します。





子育て モード

子育てに関するお役所や安心安全情報などをお気軽に閲覧することができます。





マリッジ モード

宇都宮市婚嫁で提供される婚活イベントやセミナーなど、結婚支援に関する情報を活用できるモードです。





ポイント モード

市内店舗で使える宇都宮市のポイント、MUSIC POINT(ミュージックポイント)が楽しめます。



Compatible devices 対応機種は iPhone
 ※ Android OS version that are available in Japan, with iOS or Java

宇都宮市観光情報センター TEL: 0120-333-222
 宇都宮市 TEL: 0120-333-222 24時間受付専用電話番号

宇都宮市 子育て 窓口 TEL: 0120-333-222 ※お電話で 24時間 受付 専用 番号 0120-333-222